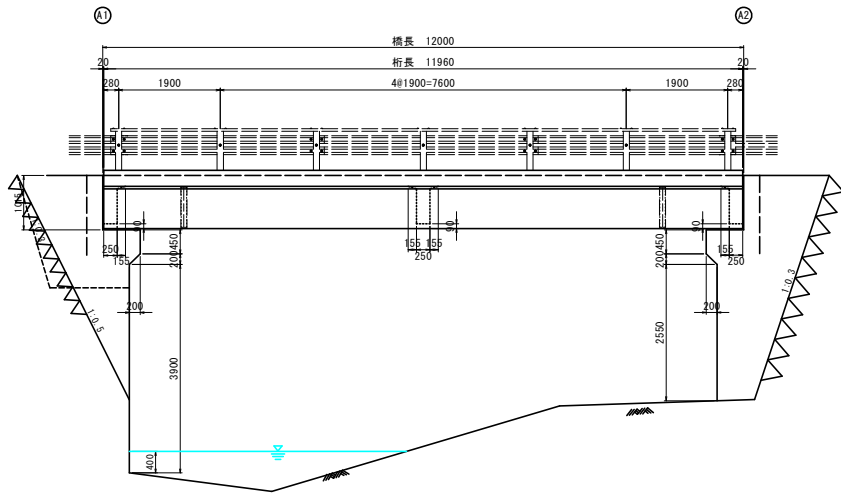


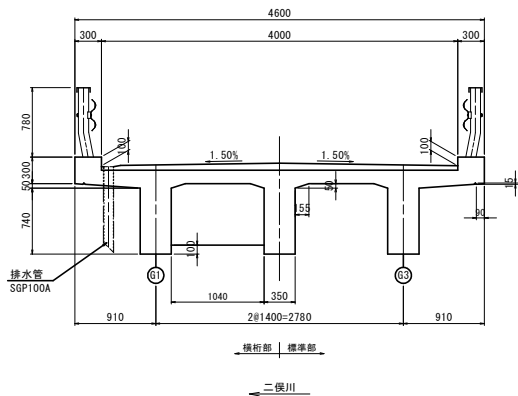
路線名	中ノ平橋		事業名	第2中ノ平橋補修工事	
林道区分	その他	級別区分	2級	設計速度	20 km/h
年度	令和7年度		施行主体	いちき串木野市	
名称	復元一般道		業中	番	
施行地	鹿児島県	いちき串木野市川上		地内	
縮尺	図示	審査者		設計者	
図面番号	1				

第2中ノ平橋 復元一般図

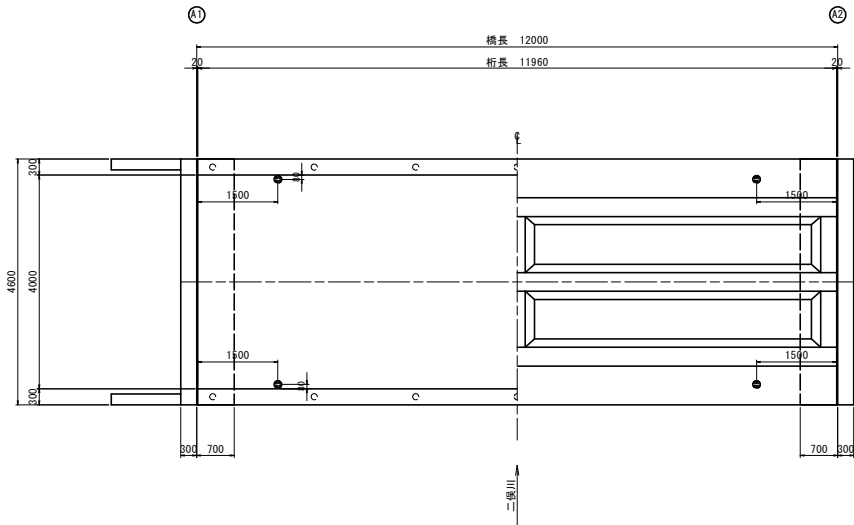
側面図 S=1:50



断面図 S=1:30



平面図 S=1:50



橋梁諸元

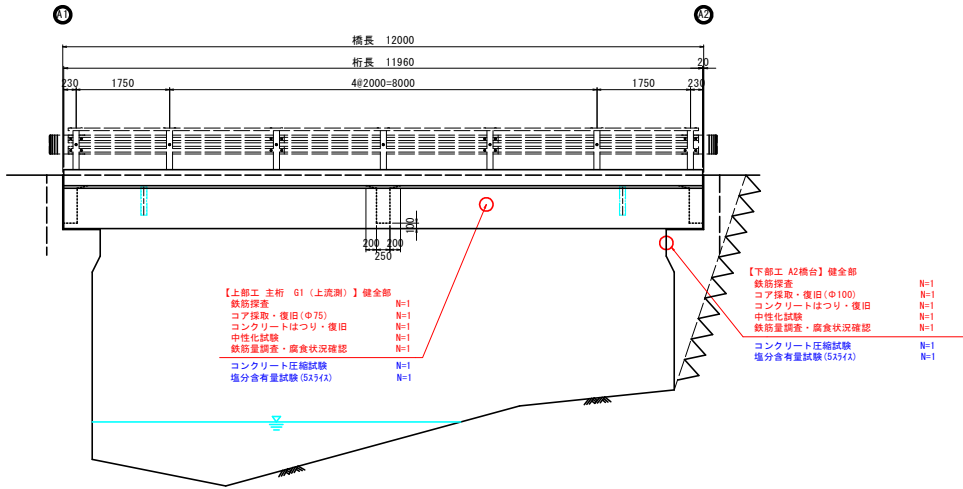
橋名	第2中ノ平橋 (ダイニカノヒラハン)
所在地	いちき串木野市 川上地内
路線	林道 中ノ平線 (その他2級)
橋長	12.00m
桁長	11.96m
幅員	全幅員: 4.60m, 有効幅員: 4.00m
活荷重	不明
上部工	RC単純T桁橋
下部工	半重力式橋台 (推定)
基礎工	不明
斜角	90° 00'
竣工/経過年数	昭和43年 (1968年) / 56年経過
交差物	普通河川 二俣川
適用示方書	昭和39年 鉄筋コンクリート道路橋示方書
塩害対策	海岸線から200m以上
補修履歴	防護柵取替

路線名	中ノ平橋	事業名	第2中ノ平橋補修工事
林道区分	その他	級別区分	2級
年度	令和7年度	設計速度	20 km/h
名称	品質試験位置図	実施主体	いちき串木野市
施行地	鹿児島県	いちき串木野市川上	地内
縮尺	図示	審査者	設計者
図面番号	2		

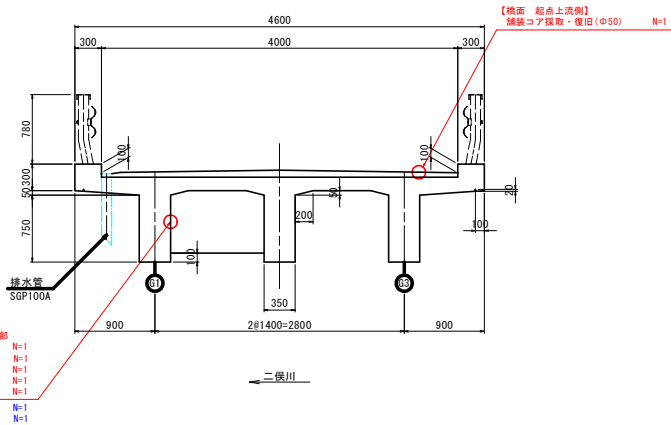
第2中ノ平橋 品質試験位置図

赤色：現地試験
青色：室内試験

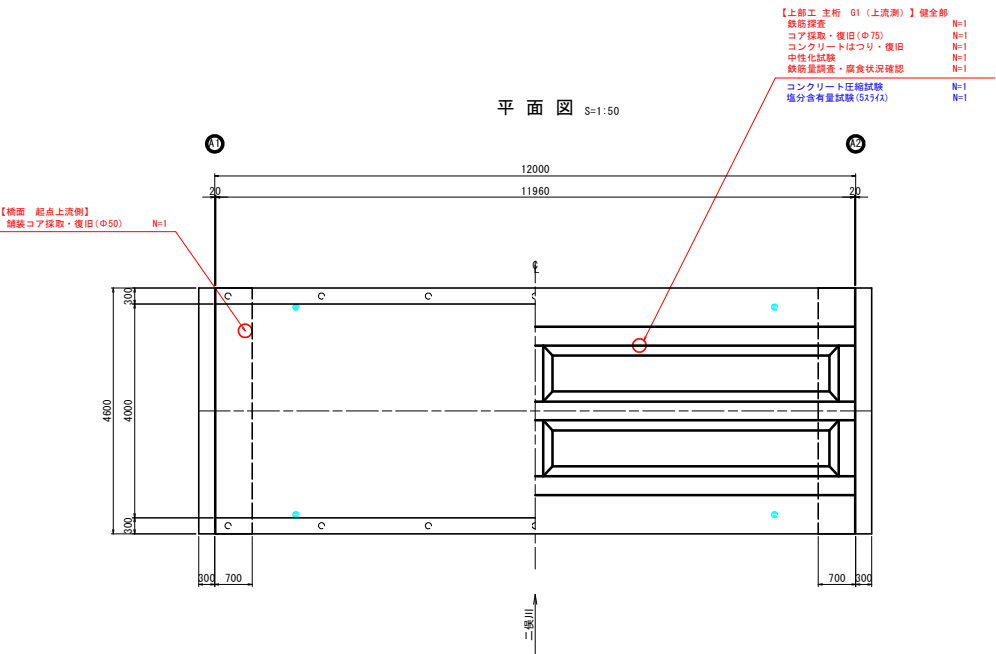
側面図 S=1:50



断面図 S=1:30



平面図 S=1:50



コンクリート部材

試験種別	数量	単位	備考
鉄筋探査1000×1000程度	2	箇所	上部工1、下部工1
コンクリートはつり調査・復旧 200×200×100程度	2	箇所	上部工1、下部工1
コア採取・復旧(上部工:Φ75、下部工:Φ100)	2	箇所	上部工1、下部工1
中性化試験(コア法)	2	箇所	上部工1、下部工1
鉄筋量調査・腐食状況確認	2	箇所	上部工1、下部工1
舗装コア採取・復旧 Φ50(コア法)	1	箇所	橋面1
コンクリート圧縮試験(コア法)	2	箇所	上部工1、下部工1
含有塩分量試験(コア法)	2	箇所	上部工1、下部工1(各5スライス/箇所)

※含有塩分量試験は第1中ノ平橋と同様に5スライスとする。(第1中ノ平橋補修実施設計業務委託報告書より)
※鉄筋探査により、下部工が無筋の場合は試験位置・内容を上部工に変更。

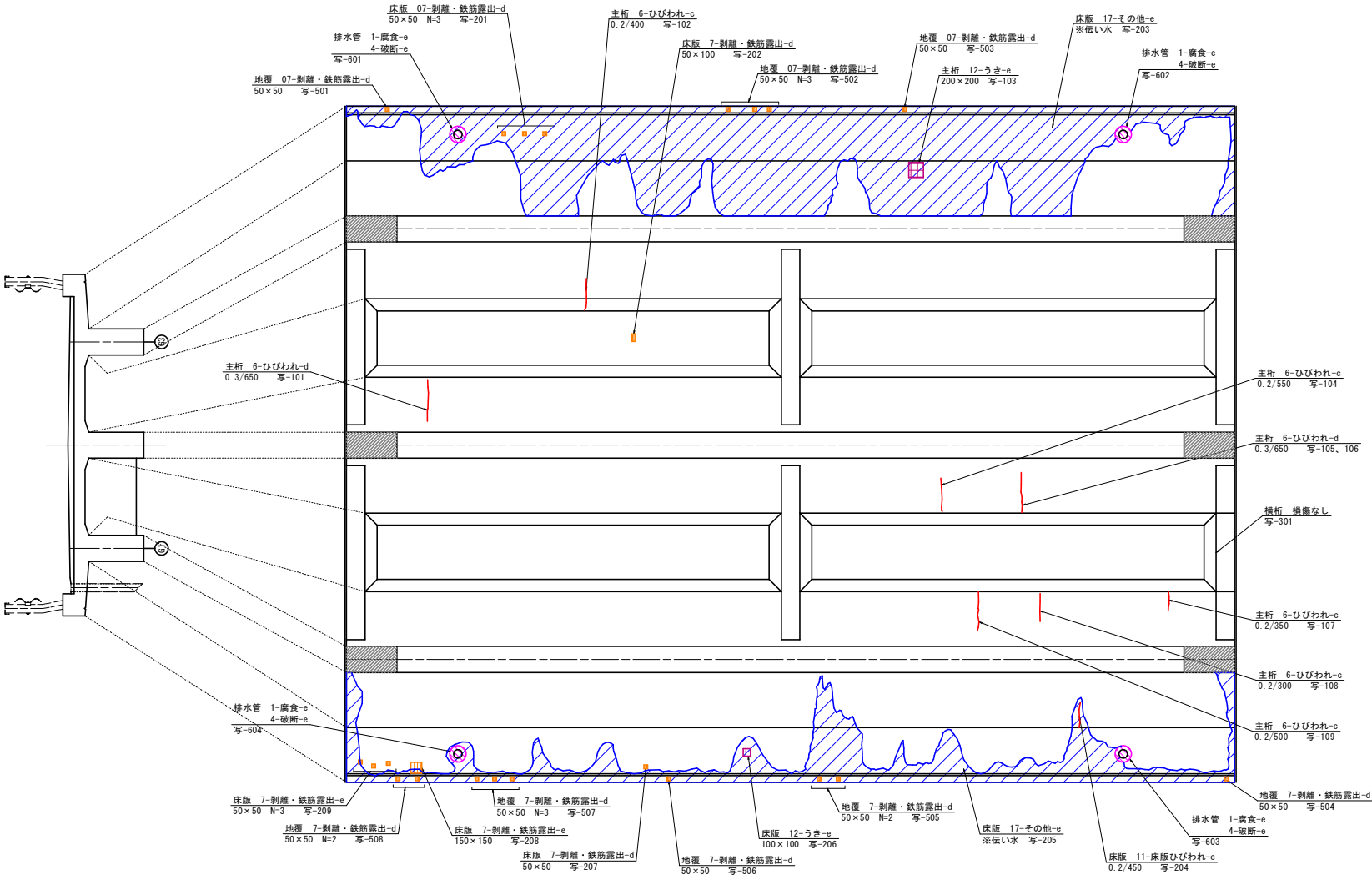
【調査位置についての留意事項】

- 主桁の削孔位置は、鋼材の間隔が広く、その影響が比較的小さいと考えられる位置にて実施。
案) 降雨の影響：雨掛かり部分を避けた位置
曲げへの影響：支間の1/4位置から支点側
- コア採取位置は、削孔前に入念に探査を実施し、鉄筋を避けた位置にて実施。

路線名	中ノ平橋	事業名	第2中ノ平橋補修工事
林道区分	その他	級別区分	2級
年度	令和7年度	設計速度	20 km/h
名称	上部工損傷図	施行主体	いちき串木野市
施行地	鹿児島県	いちき串木野市川上	地内
縮尺	図示	審査者	設計者
図面番号	3		

第2中ノ平橋 上部工損傷図 S=1:30

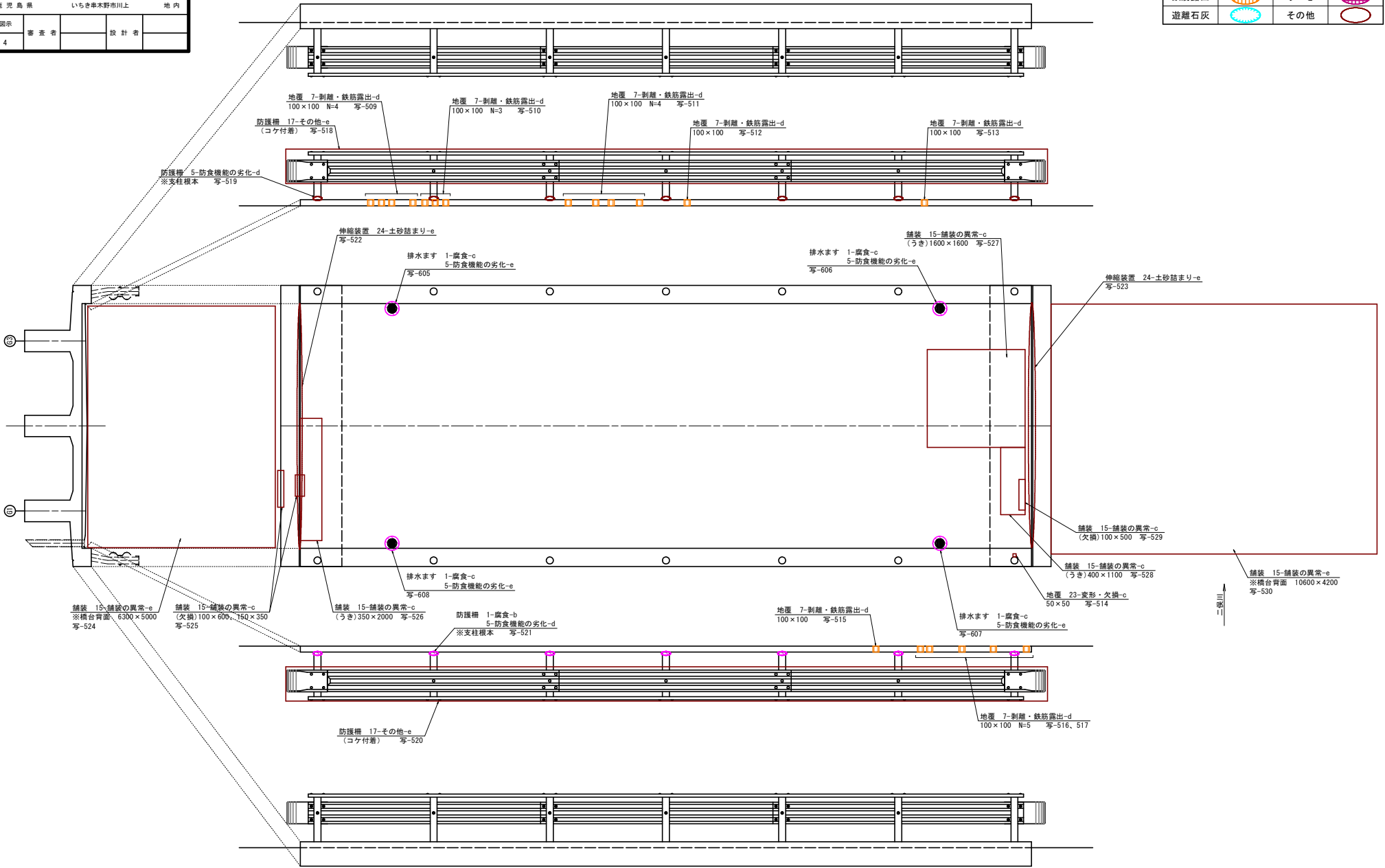
損傷の凡例			
損傷の種類	表示	損傷の種類	表示
ひびわれ	0.2mm未満 0.2~1.0mm 1.0mm以上	漏水・滞水	
剥離		腐食	
鉄筋露出		うき	
遊離石灰		その他	



路線名	中ノ平橋	事業名	第2中ノ平橋補修工事
林道区分	その他	級別区分	2級
年度	令和7年度	設計速度	20 km/h
名称	橋面工損傷図	施行主体	いちき串木野市
施行地	鹿児島県	いちき串木野市川上	地内
縮尺	図示	審査者	設計者
図面番号	4		

第2中ノ平橋 橋面工損傷図 S=1:30

損傷の凡例			
損傷の種類	表示	損傷の種類	表示
ひびわれ	0.2mm未満 0.2~1.0mm 1.0mm以上	漏水・滞水	
剥離		腐食	
鉄筋露出		うき	
遊離石灰		その他	

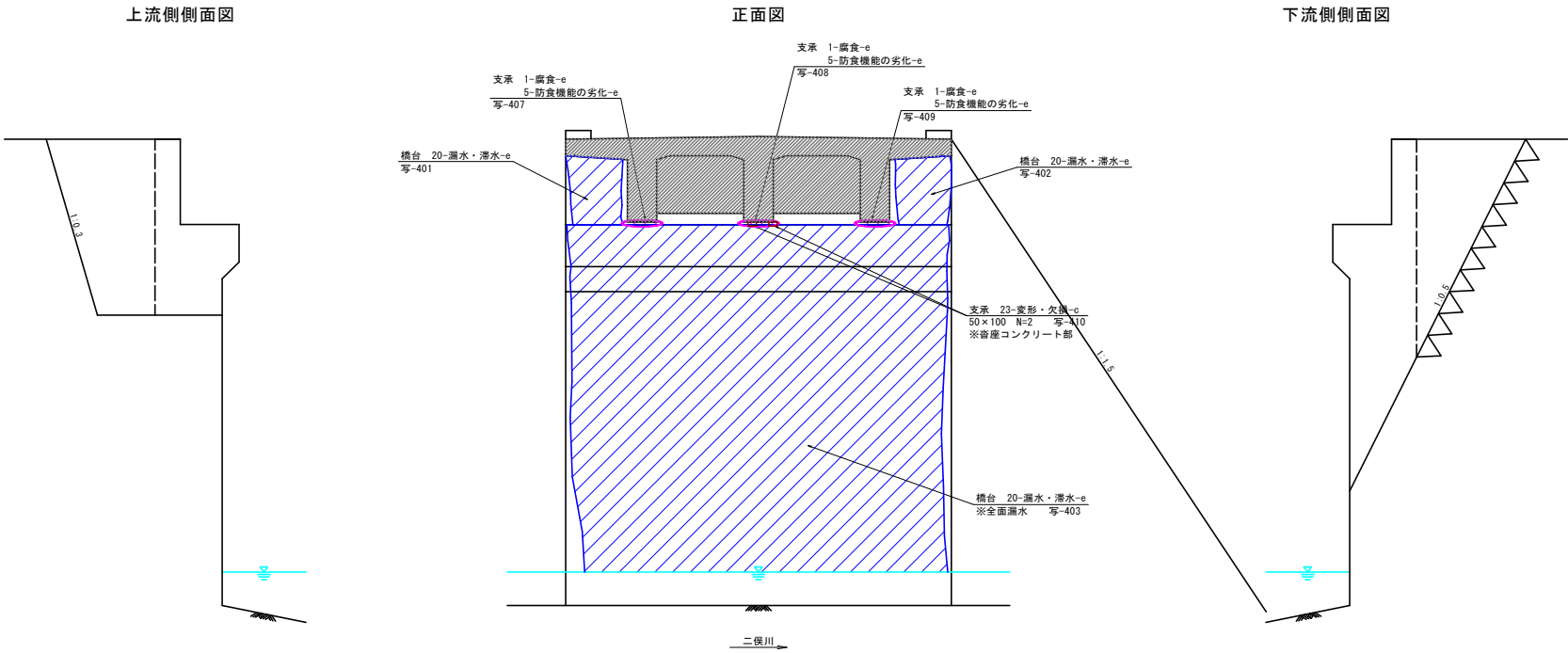


路線名	中ノ平橋		事業名	第2中ノ平橋補修工事		
林道区分	その他	級別区分	2級	設計速度	20	km/h
年度	令和7年度		施行主体	いちき串木野市		
名称	下部工損傷図		2	案中	1番	
施行地	鹿児島県		いちき串木野市川上		地内	
縮尺	図示	審査者		設計者		
図面番号	5					

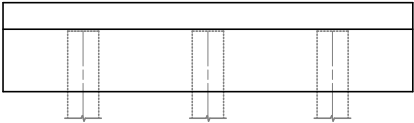
第2中ノ平橋 下部工損傷図（1/2） S=1:30

損傷の凡例			
損傷の種類	表示	損傷の種類	表示
ひびわれ	0.2mm未満 0.2~1.0mm 1.0mm以上	漏水・滞水	
剥離		腐食	
鉄筋露出		うき	
遊離石灰		その他	

A1橋台



平面図



路線名	中ノ平線		事業名	第2中ノ平橋補修工事		
林道区分	その他	級別区分	2級	設計速度	20	km/h
年度	令和7年度		施行主体	いちき串木野市		
名称	下部工損傷図		2	案中	2	番
施行地	鹿児島県		いちき串木野市川上		地内	
縮尺	図示	審査者		設計者		
図面番号	6					

第2中ノ平橋 下部工損傷図 (2/2) S=1:30

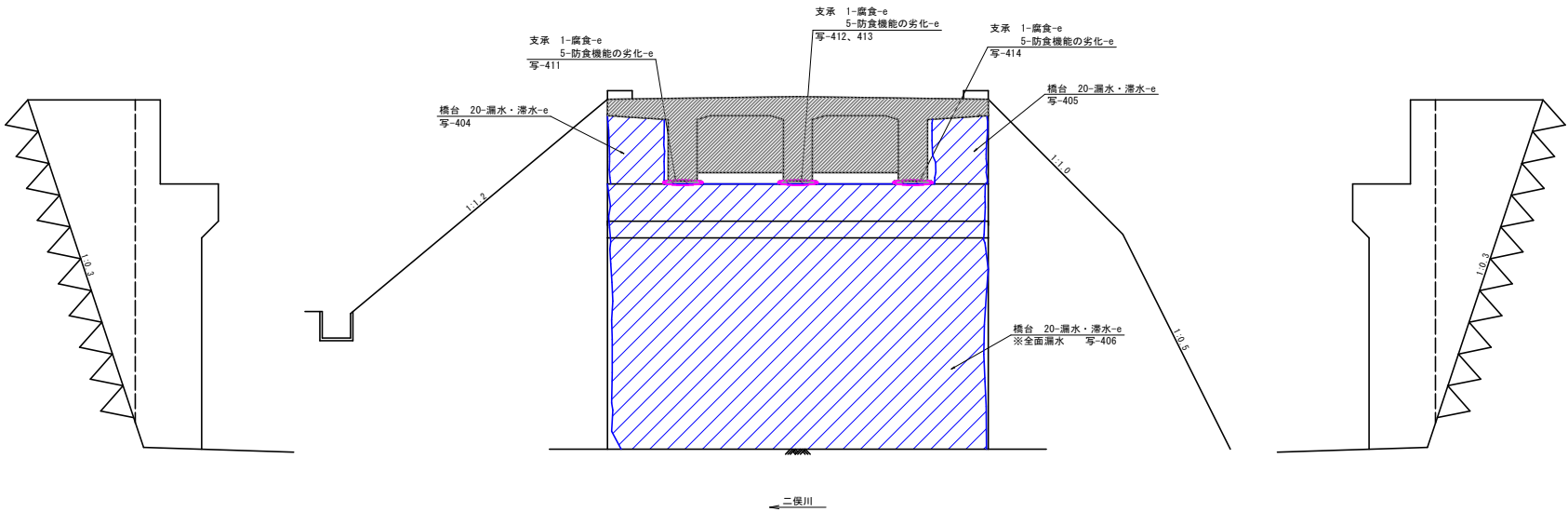
損傷の凡例			
損傷の種類	表示	損傷の種類	表示
ひびわれ	0.2mm未満 0.2~1.0mm 1.0mm以上	漏水・滞水	
剥離		腐食	
鉄筋露出		うき	
遊離石灰		その他	

A2橋台

下流側側面図

正面図

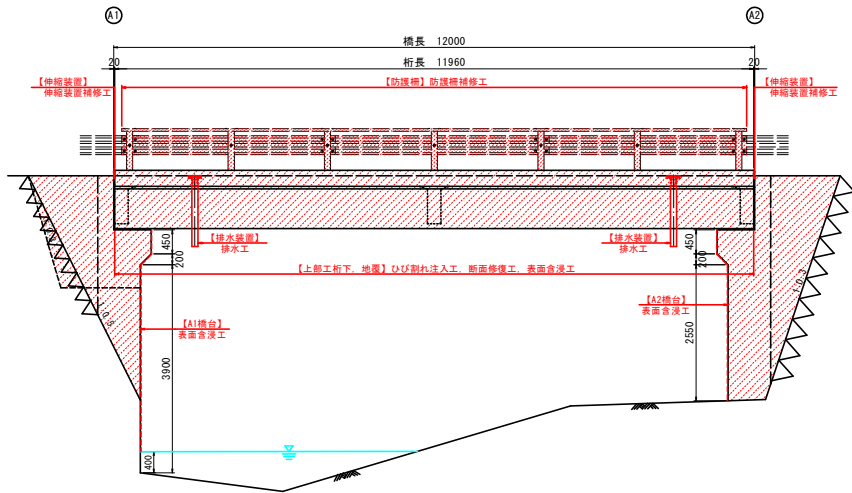
上流側側面図



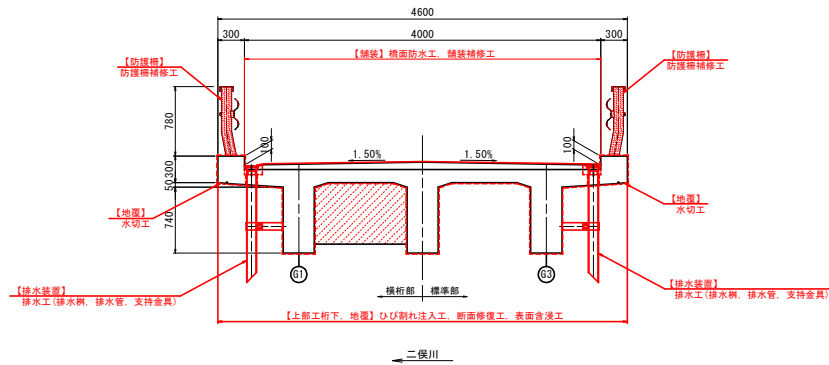
路線名	中ノ平橋	事業名	第2中ノ平橋補修工事
林道区分	その他	級別区分	2級
年度	令和7年度	設計速度	20 km/h
名称	補修一般図	施行主体	いちき串木野市
施行地	鹿児島県	いちき串木野市川上	地内
縮尺	図示	審査者	設計者
図面番号	7		

第2中ノ平橋 補修一般図

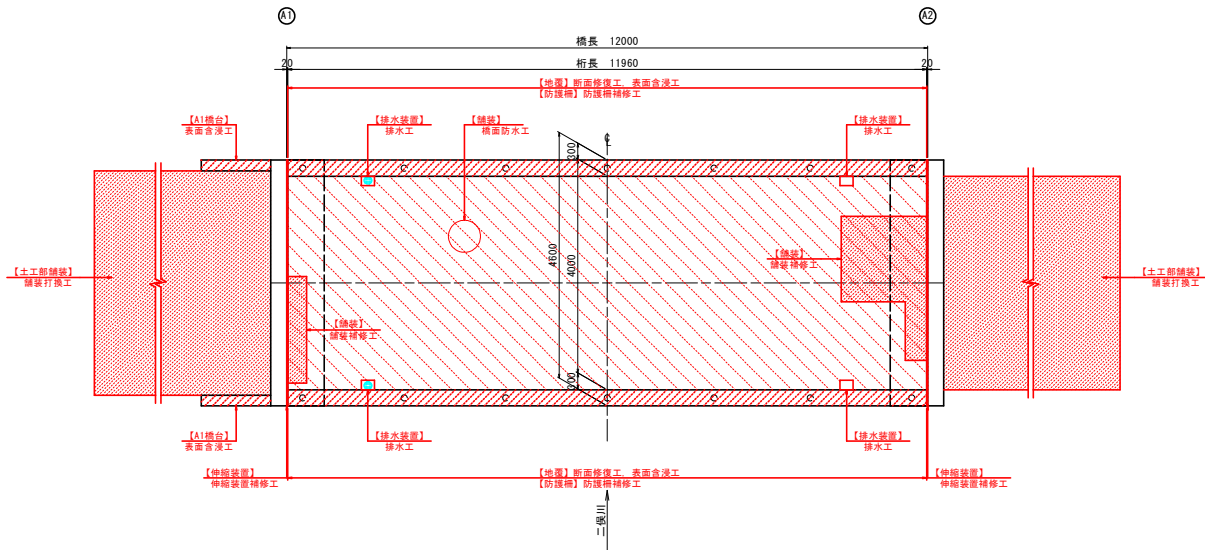
側面図 S=1:50



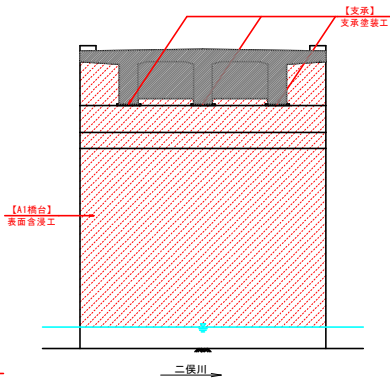
断面図 S=1:30



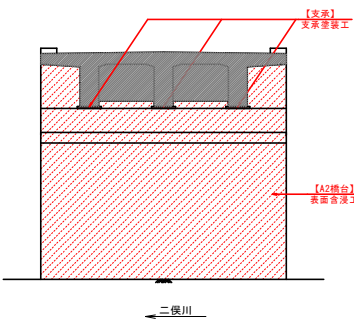
平面図 S=1:50



A1橋台 S=1:50



A2橋台 S=1:50



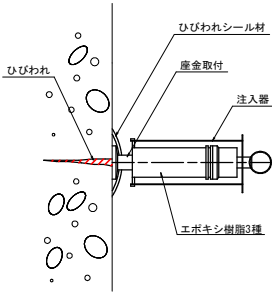
補修対策一覧

対策工	補修箇所
ひび割れ注入工	エポキシ樹脂注入材3種
断面修復工	左官工法、ポリマーセメントモルタル
表面含浸工	けい酸系（2液混合型）
支承塗装工	常温亜鉛メッキ処理
排水工	排水樹、排水管、支持金具
水切工	エチレンプロピレン（EPDM）ゴム
橋面防水工	高浸透型床版防水材
伸縮装置補修工	目地処理工
舗装補修工	ポリマーセメントモルタル
防護欄補修工	高圧洗浄、塗装塗替
土工部舗装打換工	アスファルト舗装
主桁、床版、地覆	主桁、床版、地覆
主桁、横桁、床版、地覆、A1橋台、A2橋台	主桁、横桁、床版、地覆、A1橋台、A2橋台
支承（A1・A2全箇所、N=6箇所）	支承（A1・A2全箇所、N=6箇所）
排水装置（全4箇所）	排水装置（全4箇所）
地覆（上下流）	地覆（上下流）
舗装	舗装
伸縮装置（A1、A2）	伸縮装置（A1、A2）
舗装（部分）	舗装（部分）
防護欄（上下流）	防護欄（上下流）
橋台背面土工部	橋台背面土工部

路線名	中ノ平橋	事業名	第2中ノ平橋補修工事
林道区分	その他	級別区分	2級
年度	令和7年度	施行主体	いちき串木野市
名称	補修工法詳細図	業中	番
施行地	鹿児島県	いちき串木野市川上	地内
縮尺	図示	審査者	設計者
図面番号	8		

ひび割れ補修工詳細図

ひび割れ注入工



- ・ワイヤブラシなどでコンクリート表面をケレンし、清掃する。
- ・ひび割れに沿って座金(注入口)を取り付ける。
- ・注入材が流出しないように、ひびわれをシールする。
- ・座金に注入器具を設置し、注入材を注入する。
- ・養生硬化後、器具を取り外し表面処理(凹凸の平滑)を行う。

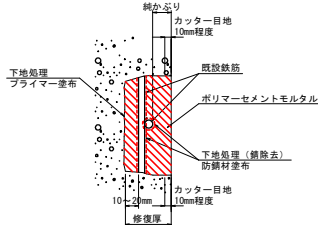
- 注記) ひびわれ注入は幅0.2mm以上を対象とする。
- ・現地再調査後、施工箇所を確定すること。
 - ・鉄筋腐食を伴うものは断面修復とする。
 - ・器具の取付けは1m当たり4ヶ(c t c 250mm)とする。

第2中ノ平橋 補修工法詳細図

断面修復工詳細図

ポリマーセメントモルタル：左官工法

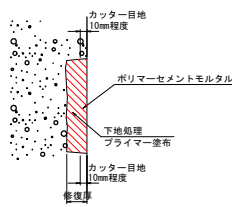
防錆処理：有



- ・補修断面端部に10mm程度のカッター目地を入れる。
- ・既設コンクリートの脆弱部を除去する。
- ・発錆している鉄筋を露出させる。
- ・鉄筋のケレン、錆の除去を行い防錆材を塗布する。
- ・コンクリート修復面にプライマーを塗布する。
- ・ポリマーセメントモルタルによる断面修復を行う。
- ・施工箇所は集計表を参照とする。

- 注記) 断面修復(防錆処理：有)は鉄筋露出やうきを対象とする。
- ・現地再調査後、施工箇所を確定すること。
 - ・鉄筋腐食を伴うものは断面修復とする。
 - ・断面修復のはり深さは、鉄筋位置に応じて調整を行うこと。

防錆処理：無

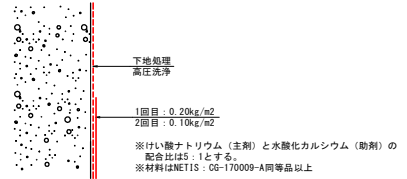


- ・補修断面端部に10mm程度のカッター目地を入れる。
- ・既設コンクリートの脆弱部を除去する。
- ・コンクリート修復面にプライマーを塗布する。
- ・ポリマーセメントモルタルによる断面修復を行う。
- ・施工箇所は集計表を参照とする。

- 注記) 断面修復(防錆処理：無)は残鉄や欠損を対象とする。
- ・現地再調査後、施工箇所を確定すること。
 - ・修復厚は30mmとするが、損傷の状況に応じて調整すること。

表面含浸工詳細図

含浸材：けい酸塩系（2液混合型）



- ・コンクリート表面のゴミや付着物を、高圧洗浄により除去する。
- ・表面の乾燥確認後、含浸材（0.20kg/m2）をローラーまたはコテバケで塗布する。
- ・表面の指触乾燥（表面を指で触って指に材料がつかず、湿り気を感じる程度の状態）確認後、含浸材（0.10kg/m2）をローラーまたはコテバケで塗布する。

- 注記) 主桁、床版、地盤、橋台を対象とする。
- ・気温が30℃以上の場合は、散水により表面温度を下げることを推奨。
 - ・2液配合時のゲル化タイム：約30時間(20℃)

補修材の要求性能

(この要求性能を参考として、同等品と認められる材料を選定するものとする)

ひびわれ補修材の性能例		(試験温度 20℃)				
項目	材料の種類 単位	注 入 材		充 填 材		充 填 材
		土木補修用 エポキシ樹脂 注入材 1種	土木補修用 エポキシ樹脂 注入材 2種	土木補修用 エポキシ樹脂 注入材 3種	土木補修用 充填材 充填材 ポリマー セメント系 3種	土木補修用 充填材 充填材 シーラント系 A B
ひびわれ進行度区分		B		A	B	A B
ひびわれ幅 (mm)		0.2 ~ 5.0				5.0 <
粘 度	cps	1,000以下	4±1 (注-1)	1,000以下	10,000以下	だれを認めず
可硬時間	分	30以上	30以上	30以上	30以上	240以内
硬化時間	時間	16以内	16以内	24以内	16以内	24以内
硬化収縮	%	0.1以下	0.1以下	0.1以下	0.1以下	—
伸 び 率	%	—	50以上	100以上	—	800以上
モルタル付着 強さ (乾燥面)	kgf/cm2	60以上	60以上	60以上	60以上	たわみ量 10mm以上で 破壊すること
付着力耐久性 保持率 (注-2)	%	60以上	60以上	60以上	60以上	60以上

※注-1 チキトリック係数 2rpm/20rpm の粘度で表す。

※注-2 規格に対する百分率

※ひびわれ進行区分 A：ひびわれが進行している

B：ひびわれの進行が止まった

抜粋：「旧建設省総合技術開発プロジェクト：土木研究センター」

補修材の要求性能（断面修復材）

(この要求性能を参考として、同等品と認められる材料を選定するものとする)

ポリマーセメントモルタルの性能例		施工方法				
種別	単位	左官		吹付け		売でん
		普通	経量	速硬	普通	普通
単位容積質量 (kg/L)		1.8~2.2	1.3~1.6	1.8~2.1	1.5~2.2	2.1~2.2
フロア		120~160	110~150	120~160	140~250	~300
硬化時間 (h)		3~8	3~10	0.5~2	3~8	4~15
圧縮強度 (N/mm2)	材料 3h	—	—	3~15	—	—
	材料 1d	5~25	3~25	10~30	5~15	5~10
	材料 7d	20~40	5~30	20~40	20~40	15~40
	材料 28d	25~60	10~35	25~40	30~60	25~50
付着強度 (N/mm2)	標準	1.8~3.4	1.8~2.6	2.0~2.8	2.0~3.5	2.0~2.3
	凍凍凍凍凍	1.8~2.4	2.0~3.0	1.6~3.0	1.5~2.4	1.6~2.2
弾性係数 (N/mm2)		16~21	12~15	13~21	14~21	17~21
引張強度 (N/mm2)		—	—	3~6	—	—
収縮率 (×10 ⁻⁴)		—	—	200~1000	—	—
熱膨張率 (×10 ⁻⁶ /℃)		8~17	9~13	10~15	9~17	—

抜粋：「表面保護工法 設計施工指針（案）：土木学会」

表面含浸工集計表		1橋当たり		
種 別	面 積 (m2)	A1橋台		合計
		A1橋台	A2橋台	
けい酸塩系 (2液混合型)	127.2	30.8	30.0	188.0

ひび割れ注入工集計表		1橋当たり			
種 別	延 長 (m)	A1橋台		合計	体積 (m3)
		A1橋台	A2橋台		
注入工 (0.2≦幅≦1.0) 3種	3.850	—	—	3.850	0.00047

断面修復工 (防錆処理：有) 集計表		1橋当たり			
種 別	面 積 (m2)	A1橋台		合計	体積 (m3)
		A1橋台	A2橋台		
左官工法	0.153	0.330	—	0.483	0.03357

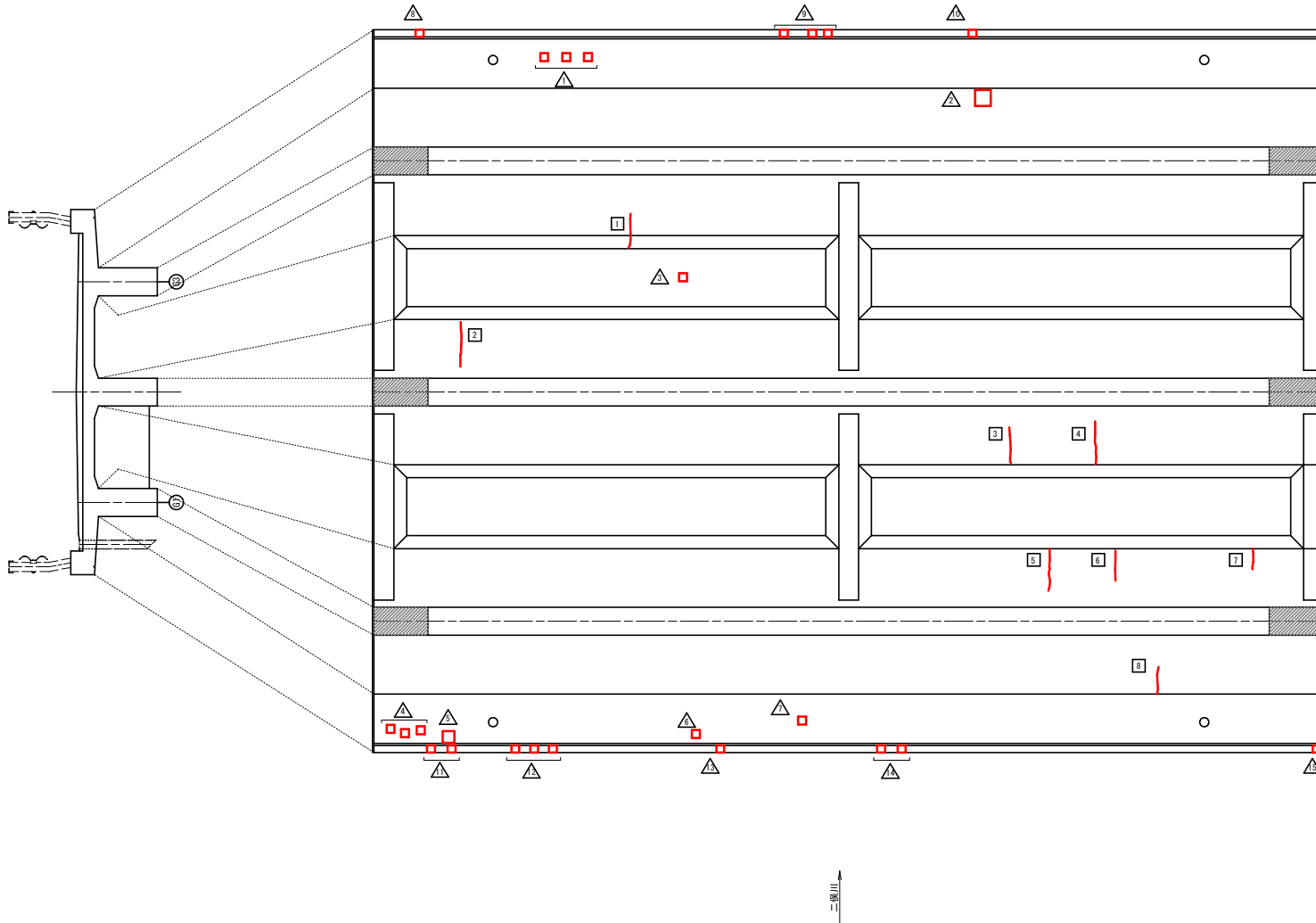
断面修復工 (防錆処理：無) 集計表		1橋当たり			
種 別	面 積 (m2)	A1橋台		合計	体積 (m3)
		A1橋台	A2橋台		
左官工法	—	—	—	3.805	0.20855

路線名	中ノ平橋		事業名	第2中ノ平橋補修工事	
林道区分	その他	級別区分	2級	設計速度	20 km/h
年度	令和7年度		施行主体	いちき串木野市	
名称	上部工補修区		2	案中	1番
施行地	鹿児島県		いちき串木野市川上		地内
縮尺	図示	調査者		設計者	
図面番号	9				

注記)
1. 施工前には必ず現況寸法測定を行い、図面照合等の確認ののち施工箇所を決定すること。
2. 地覆水切部の断面修復工（断面修復番号9～15）は、横面工補修図を参照とする。

第2中ノ平橋 上部工補修図（1/2） S=1:30

ひび割れ補修工，断面修復工



ひび割れ注入工数量表						上部工
番号	幅 (mm)	長さ (m)	箇所	延長 (m)	深さ (m)	体積 (m3)
1	0.2	0.40	1	0.400	0.052	0.000094
2	0.3	0.65	1	0.650	0.052	0.000010
3	0.2	0.55	1	0.550	0.052	0.000096
4	0.3	0.65	1	0.650	0.052	0.000010
5	0.2	0.50	1	0.500	0.052	0.000095
6	0.2	0.30	1	0.300	0.052	0.000093
7	0.2	0.35	1	0.350	0.052	0.000094
8	0.2	0.45	1	0.450	0.052	0.000095
合 計			8	3.850		0.00047

※ひび割れ深さ＝ 52 mm （はつり調査結果より設定）

断面修復工数量表（防錆処理：有）						上部工
番号	長さ (m)	幅 (m)	箇所数	面積 (m2)	深さ (m)	体積 (m3)
1	0.10	0.10	3	0.030	0.090	0.00270
2	0.20	0.20	1	0.040	0.090	0.00360
3	0.10	0.10	1	0.010	0.090	0.00090
4	0.10	0.10	3	0.030	0.090	0.00270
5	0.15	0.15	1	0.023	0.090	0.00207
6	0.10	0.10	1	0.010	0.090	0.00090
7	0.10	0.10	1	0.010	0.090	0.00090
合 計			11	0.153		0.01377

※断面修復厚は、はつり調査結果より90mmとした。
64mm（かぶり）+13mm（鉄筋径）+10mm（余裕）＝87mm≒90mm

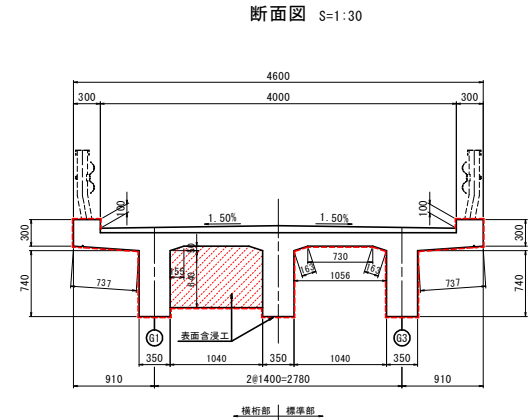
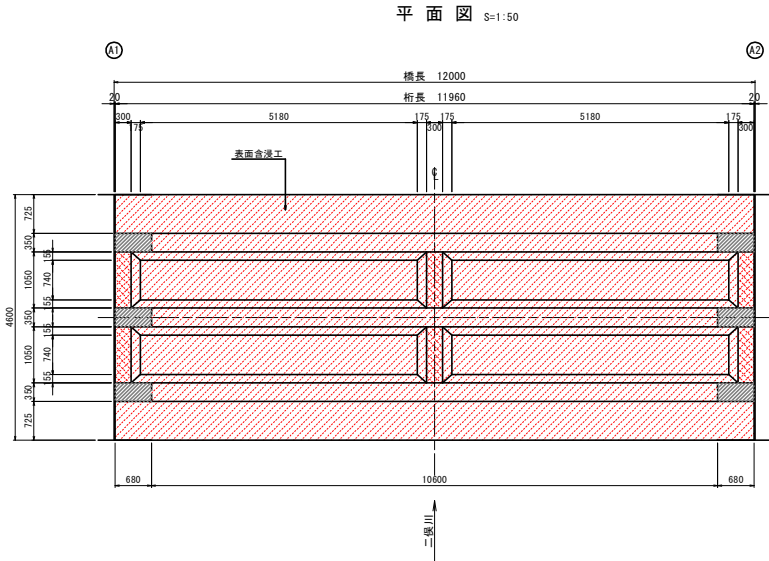
凡 例	
補修工法	表 示
ひびわれ注入	□ 〓
断面補修 （防錆処理あり）	△ 〓
断面補修 （防錆処理なし）	○ 〓

路線名	中ノ平橋		事業名	第2中ノ平橋補修工事		
林道区分	その他	級別区分	2級	設計速度	20 km/h	
年度	令和7年度		施行主体	いちき串木野市		
名称	上部工補修図		2	案	中	2番
施行地	鹿児島県		いちき串木野市川上		地内	
縮尺	図示			設計者		
図面番号	10	審査者				

注記)
1. 施工前には必ず現況寸法実測を行い、図面照合等の確認ののち施工箇所を決定すること。
2. 表面含浸工の材料は、NETIS：06-170009-A同等品以上とする。

第2中ノ平橋 上部工補修図 (2/2) S=1:30

表面含浸工



表面含浸工数量表

種別	規格	計算法	数量	単位	摘要
下地処理	高圧洗浄	$(0.10+0.30+0.30+0.737) \times 11.96 \times 2$	= 34.373		地盤・強出保版
		$(1/2 \times (1.04+1.056) \times 0.175 \times 2+1.056 \times 5.18) \times 2 \times 2$	= 23.347		中間床版
		$((0.74 \times 2+0.35) \times 11.96-0.68 \times 0.35 \times 2) \times 3-0.64 \times 0.30 \times 12$	= 61.928		主桁
		$(1.04 \times 0.69-0.155 \times 0.05) \times 8+1.04 \times 0.30 \times 6$	= 7.550		横桁
		$34.373+23.347+61.928+7.550$	= 127.198		合計
表面含浸工	けい酸塩系	下地処理と同じ	127.2	m2	2液混合型(カルシウム付帯)

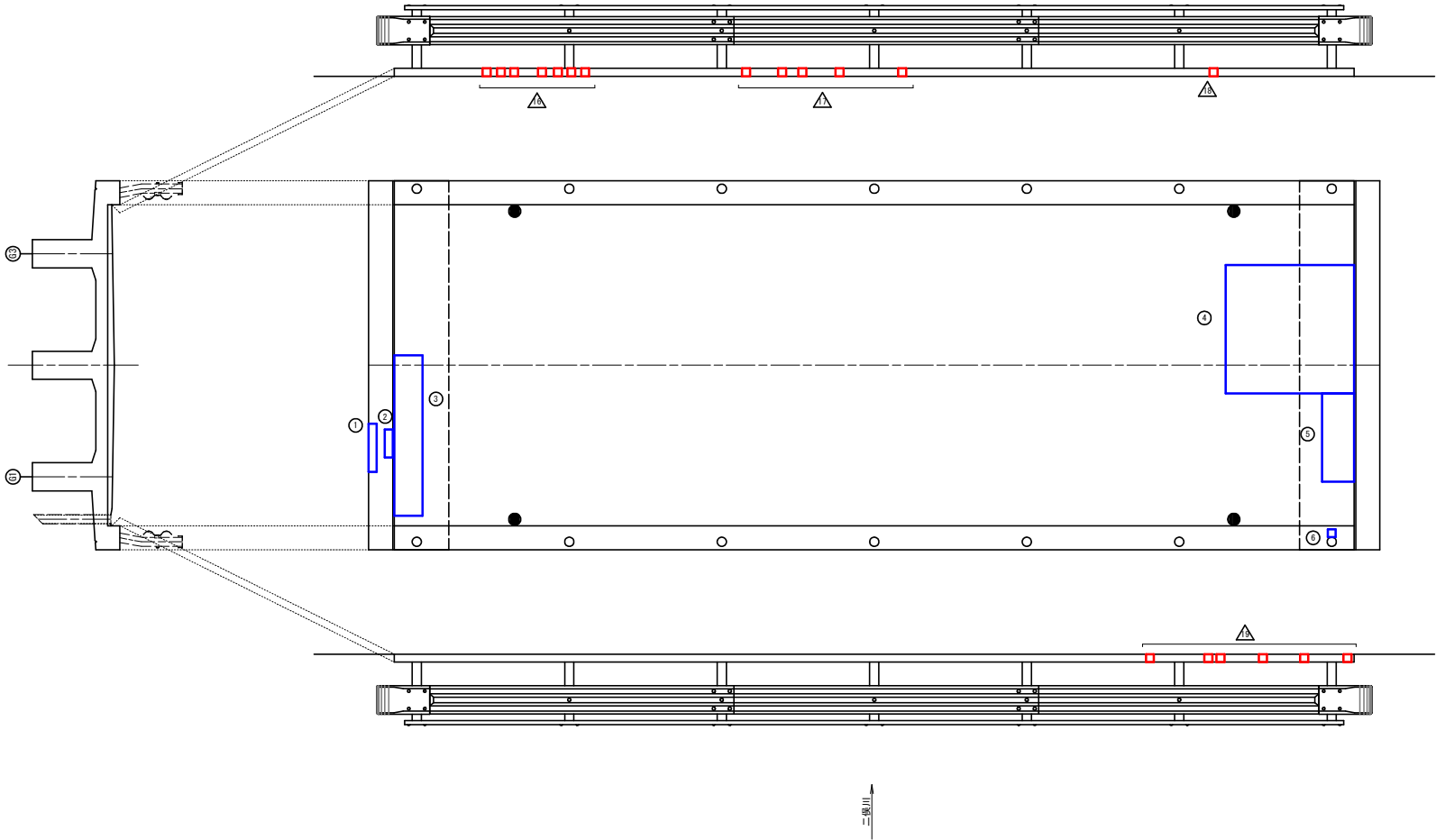
路線名	中ノ平橋	事業名	第2中ノ平橋補修工事
林道区分	その他	級別区分	2級
設計速度	20 km/h		
年度	令和7年度	施行主体	いちき串木野市
名称	橋面工補修箇	業中	番
施行地	鹿児島県	いちき串木野市川上	地内
縮尺	図示	審査者	設計者
図面番号	11		

注記)
1. 施工前には必ず現況寸法測定を行い、図面照合等の確認ののち施工箇所を決定すること。
2. 舗装の断面修復の仕上り面は、現況に合わせること。

第2中ノ平橋 橋面工補修図

S=1:30

断面修復工



断面修復工数量表（防錆処理：有）						位置
番号	長さ (m)	幅 (m)	箇所数	面積 (m2)	深さ (m)	体積 (m3)
8	0.10	0.10	1	0.010	0.060	0.00060
9	0.10	0.10	3	0.030	0.060	0.00180
10	0.10	0.10	1	0.010	0.060	0.00060
11	0.10	0.10	2	0.020	0.060	0.00120
12	0.10	0.10	3	0.030	0.060	0.00180
13	0.10	0.10	1	0.010	0.060	0.00060
14	0.10	0.10	2	0.020	0.060	0.00120
15	0.10	0.10	1	0.010	0.060	0.00060
16	0.10	0.10	7	0.070	0.060	0.00420
17	0.10	0.10	5	0.050	0.060	0.00300
18	0.10	0.10	1	0.010	0.060	0.00060
19	0.10	0.10	6	0.060	0.060	0.00360
合 計			33	0.330		0.01980

※断面修復厚は、60mmと仮定した。
30mm（推定かぶり）+13mm（推定鉄筋径）+10mm（余裕）=53mm≒60mm

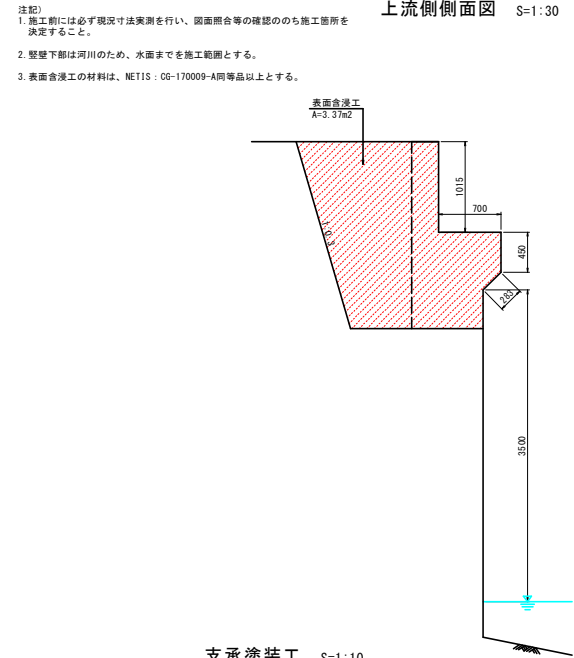
断面修復工数量表（防錆処理：無）						バラベット、舗装、位置
番号	長さ (m)	幅 (m)	箇所数	面積 (m2)	深さ (m)	体積 (m3)
1	0.10	0.60	1	0.060	0.050	0.00300
2	0.10	0.35	1	0.035	0.050	0.00175
3	0.35	2.00	1	0.700	0.055	0.03850
4	1.60	1.60	1	2.560	0.055	0.14080
5	0.40	1.10	1	0.440	0.055	0.02420
6	0.10	0.10	1	0.010	0.030	0.00030
合 計			6	3.805		0.20855

※断面修復厚は以下のとおりとする。
1. 2：バラベットの角欠けのため50mmとした。
3～5：コンクリート舗装厚の調査結果より55mmとした。
6：ガードレールリブ材の露出であり、30mmと仮定した。

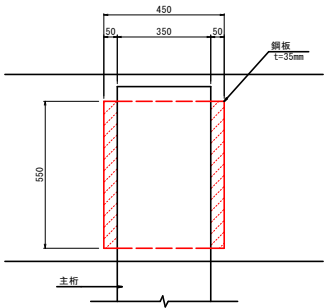
凡 例	
補修工法	表 示
ひびわれ注入	
断面補修 (防錆処理あり)	
断面補修 (防錆処理なし)	

路線名	中ノ平橋	事業名	第2中ノ平橋補修工事
林道区分	その他	級別区分	2級
年度	令和7年度	設計速度	20 km/h
名称	下部工補修図	2	案 中
施行地	鹿児島県	いちき串木野市川上	地 内
縮尺	図示	審 査 者	設 計 者
図面番号	12		

注記)
1. 施工前には必ず現況寸法実測を行い、図面照合等の確認ののち施工箇所を決定すること。
2. 壁壁下部は河川のため、水面までを施工範囲とする。
3. 表面含浸工の材料は、NETIS：CG-170009-A同等品以上とする。



支承塗装工 S=1:10
N=3基

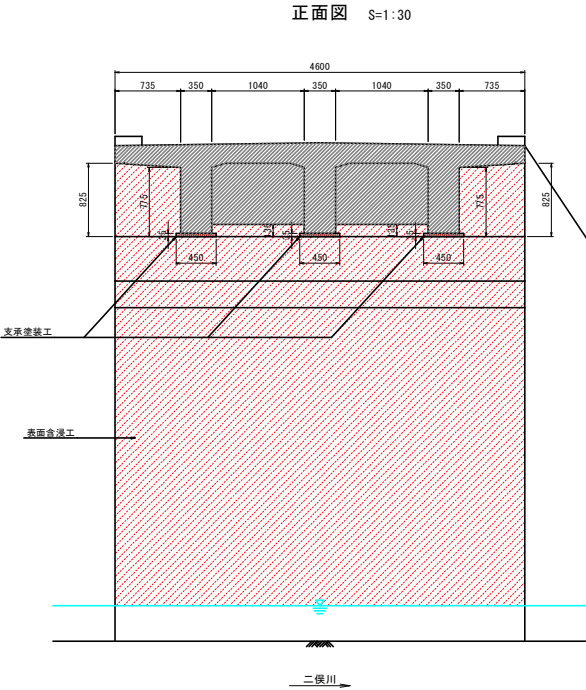


塗装仕様

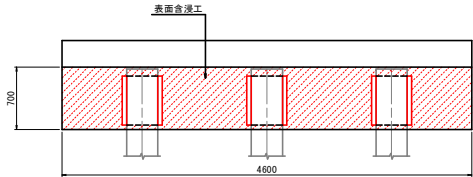
下地処理：ブラシで落とせる程度の錆および汚れを除去
塗装：常温亜鉛メッキ塗装（乾燥膜厚80μm以上）

第2中ノ平橋 下部工補修図（1/2）

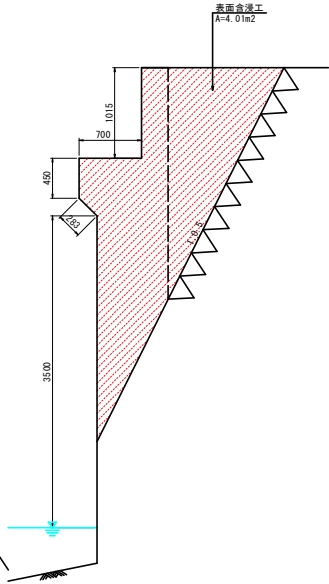
A1橋台：断面修復工，支承塗装工



平面図 S=1:30



下流側側面図 S=1:30



表面含浸工数量表

種 別	規 格	計 算 式	数 量	単 位	摘 要
下地処理	高圧洗浄	$(1/2 \times (0.825 + 0.775) \times 0.735 + 0.135 \times 1.04) \times 2$	= 1.456		バラベツト
		$(0.70 + 0.45 + 0.283 + 3.50) \times 4.60 - 0.55 \times 0.45 \times 3$	= 21.949		壁壁
		3.37×4.01	= 7.380		側面
		$1.456 + 21.949 + 7.380$	= 30.785		合計
表面含浸工	けい酸塩系	下地処理と同じ	30.8	m2	2液混合型（カルシウム付）

支承塗装工数量表

種 別	規 格	計 算 式	数 量	単 位	摘 要
下地処理		$((0.45 - 0.35) \times 0.55 + ((0.55 + 0.45) \times 2 - 0.35) \times 0.035) \times 3$	= 0.338	0.34 m2	ブラシで落とせる程度の錆および汚れを除去
塗装工	常温亜鉛メッキ	下地処理と同じ	= 0.338		

路線名	中ノ平橋	事業名	第2中ノ平橋補修工事
林道区分	その他	級別区分	2級
年度	令和7年度	設計速度	20 km/h
名称	下部工補修図	2	案 中
施行地	鹿児島県	いちき串木野市川上	地 内
縮尺	図示	審査者	設計者
図面番号	13		

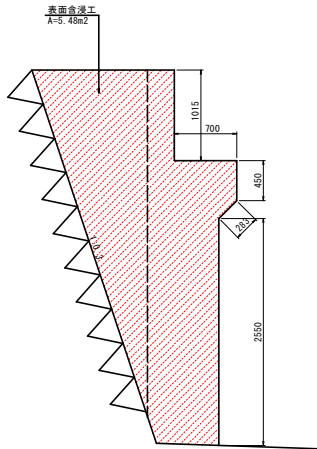
注記)
1. 施工前には必ず現況寸法実測を行い、図面照合等の確認ののち施工箇所を決定すること。

2. 表面含浸工の材料は、NETIS : 06-170009-A同等品以上とする。

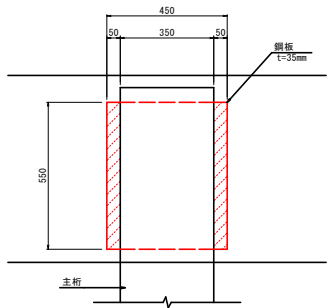
第2中ノ平橋 下部工補修図 (2/2)

A2橋台：断面修復工，支承塗装工

下流側側面図 S=1:30



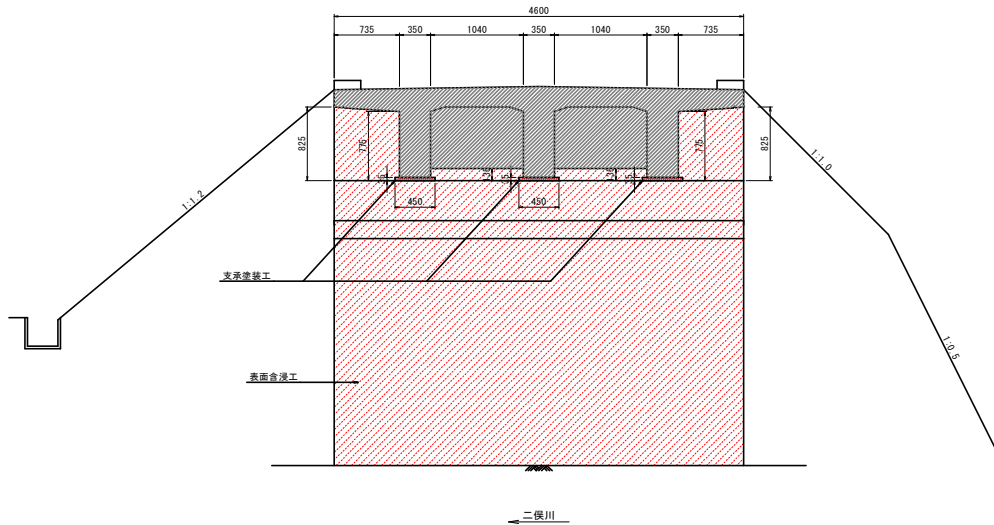
支承塗装工 S=1:10
N=3基



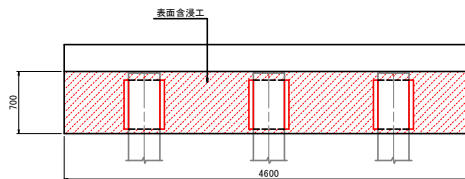
塗装仕様

下地処理：ブラシで落とせる程度の錆および汚れを除去
塗装：常温亜鉛メッキ塗装（乾燥膜厚80μm以上）

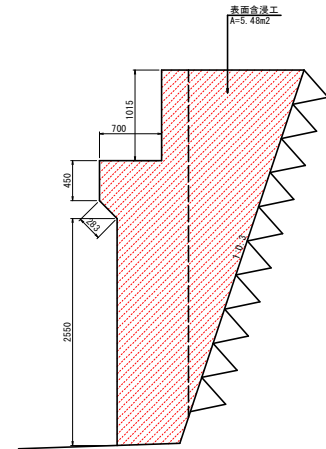
正面図 S=1:30



平面図 S=1:30



上流側側面図 S=1:30



表面含浸工数量表

種 別	規 格	計 算 式	数 量	単 位	備 考
下地処理	高圧洗浄	$(1/2 \times (0.825 + 0.775) \times 0.735 + 0.135 \times 1.04) \times 2$	$= 1.456$	30.0	ハラベット
		$(0.70 + 0.45 + 0.283 + 2.55) \times 4.60 - 0.55 \times 0.45 \times 3$	$= 17.579$		壁壁
		$5.48 + 5.48$	$= 10.960$		側面
		$1.456 + 17.579 + 10.960$	$= 29.995$		合計
表面含浸工	けい酸塩系	下地処理と同じ		m2	2液混合型(カルシウム付)

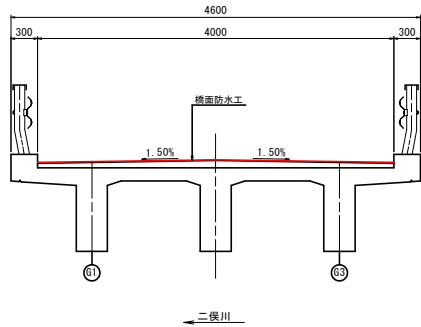
支承塗装工数量表

種 別	規 格	計 算 式	数 量	単 位	備 考
下地処理		$((0.45 - 0.35) \times 0.55 + ((0.55 + 0.45) \times 2 - 0.35) \times 0.035) \times 3$	$= 0.338$	0.34	m2
塗装工	常温亜鉛メッキ	下地処理と同じ	$= 0.338$	0.34	m2

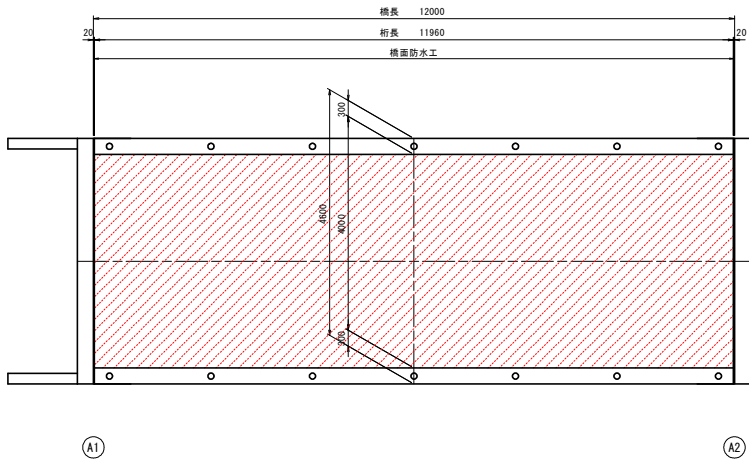
路線名	中ノ平橋		事業名	第2中ノ平橋補修工事		
林道区分	その他	級別区分	2級	設計速度	20	km/h
年度	令和7年度		施行主体	いちき串木野市		
名称	橋面防水工図		業中	番		
施行地	鹿児島県	いちき串木野市川上			地内	
縮尺	図示	審査者		設計者		
図面番号	14					

- 注記)
- 施工前には必ず現況寸法測定を行い、図面照合等の確認ののち施工箇所を決定すること。
 - 使用する材料は、NETIS：KK-230060-A同等品以上とする。
 - 表面保護層は、2層の合計塗布量が1.5kg/m2になるように適宜調整する。

断面図 S=1:30

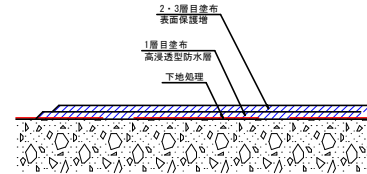


平面図 S=1:50

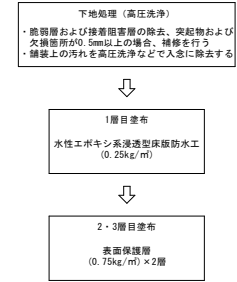


第2中ノ平橋 橋面防水工図

高浸透型床版防水材 S=1:1
(水性エポキシ系)



施工フロー



標準塗布量	
項目	性能
ハイスベックシールI	0.75kg/m2
ハイスベックシールI'	0.75kg/m2
ハイスベックシールL (CP)	0.25kg/m2
防水性能	
項目	性能
防水性能試験I	0.0ml
すべり抵抗性	75
路面標示塗料との接着性	3.0N/mm2

橋面防水工数量表

名称	仕様	数量	単位	1橋当り	摘要
下地処理	高圧洗浄	47.8	m2	4.00×11.96	
防水処理工	高浸透型床版防水材	47.8	m2		
表面保護工		47.8	m2		

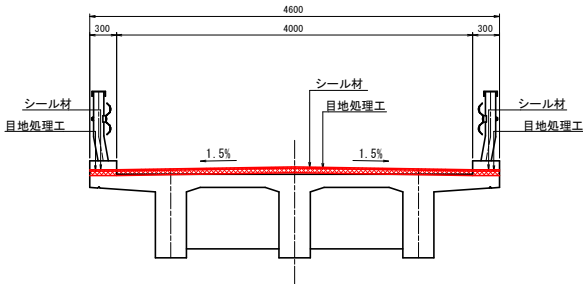
路線名	中ノ平橋		事業名	第2中ノ平橋補修工事	
林道区分	その他	級別区分	2 級	設計速度	20 km/h
年度	令和7年度		施行主体	いちき串木野市	
名称	伸縮装置補修		属中	番	
施行地	鹿児島県		いちき串木野市川上	地内	
縮尺	図示	審査者		設計者	
図面番号	15				

注記)
1. 仕様・諸寸法・適用の可否は、現地再調査及び照査の上、決定のこと。
2. 既設伸縮装置はノージョイント（エラストイト）を想定。
3. 使用する材料は、NETIS：HR-24000I-A同等品以上とする。

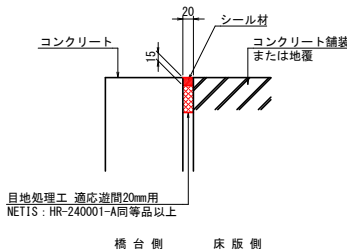
第2中ノ平橋 伸縮装置補修図

目地処理工

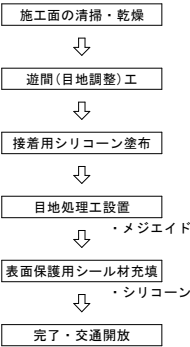
断面図 S=1:30



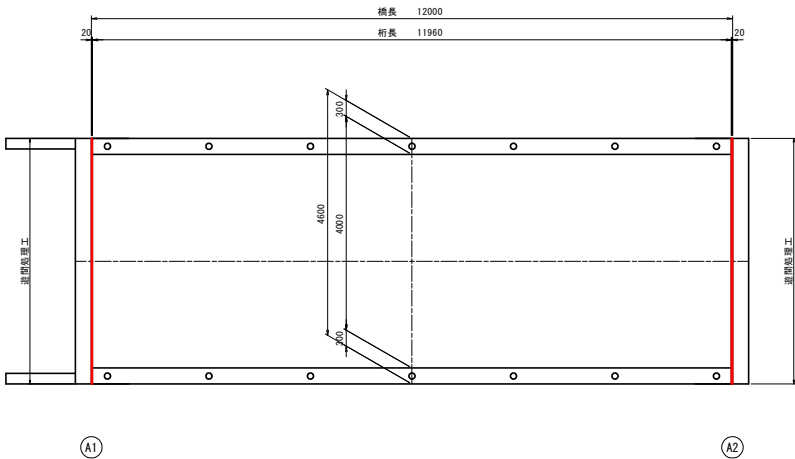
遊間処理断面図 S=1:5



施工フロー



平面図 S=1:50

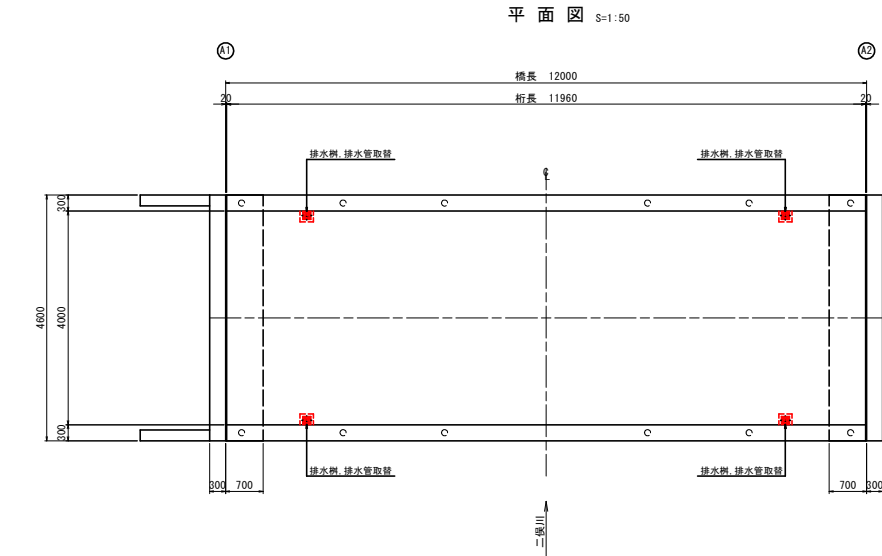
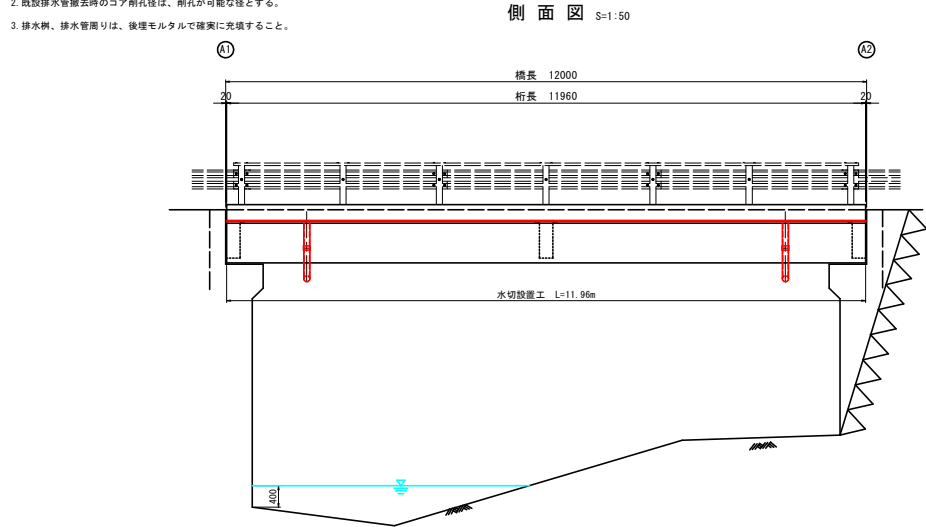


遊間処理工数量表

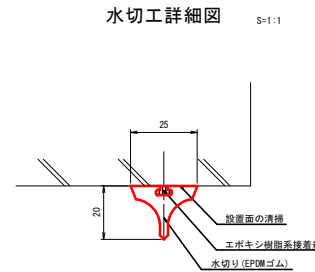
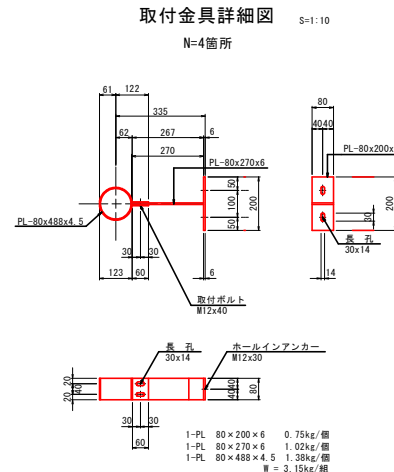
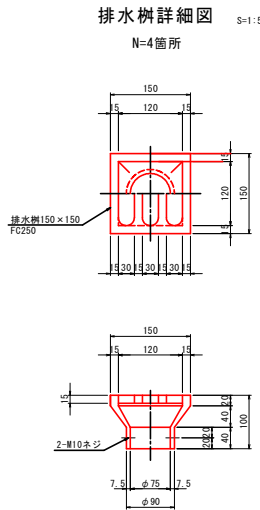
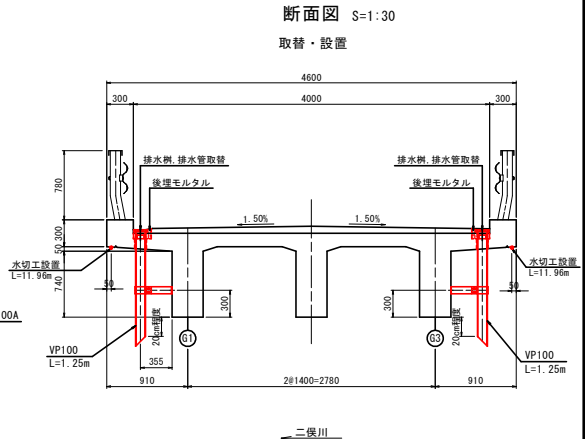
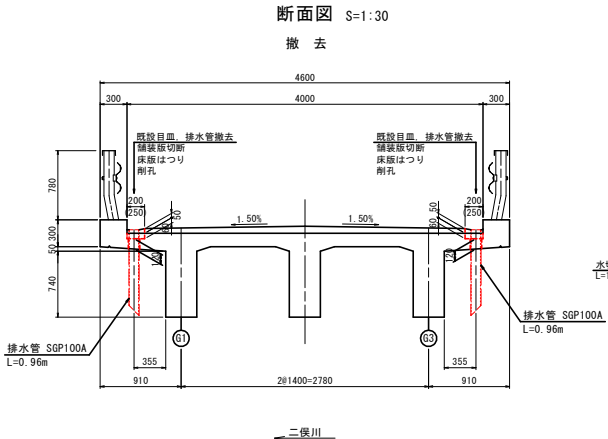
名 称	仕 様	数 量	単位	摘 要
シーリング材	シリコン系	2.8	L	
止水材	目地処理工（適応遊間20mm用）	9.2	m	(4.00+0.30×2)×2

路線名	中ノ平橋	事業名	第2中ノ平橋補修工事
林道区分	その他	級別区分	2級
年度	令和7年度	設計速度	20 km/h
名称	排水工補修・水切設置工	施行主体	いちき串木野市
施行地	鹿児島県	いちき串木野市川上	地内
縮尺	図示	審査者	設計者
図面番号	16		

- 注記)
- 施工前には必ず現況寸法実測を行い、図面照合等の確認ののち施工箇所を決定すること。
 - 既設排水管撤去時のコア削孔径は、削孔が可能な径とする。
 - 排水樹、排水管周りは、後埋モルタルで陸塞に充填すること。



第2中ノ平橋 排水工補修図・水切設置工図



取付金具材料表				
種別	形状	単位	数量	備考
鋼板	HD245以上	kg	3.15	HD245以上
取付ボルト	M12×40	セット	1	HD235以上
ホールインアンカー	M12×30	個	2	HD235以上

排水工数量表				
種別	規格	計算式	数量	単位
既設目皿撤去	鋼材		4	個
既設排水管撤去	SGP100A	0.96×4	3.840	m
舗装板切斷	コンクリート、t=50mm	(0.20×2+0.25)×4	2.600	m
舗装板破砕	コンクリート	(0.20×0.25-π×0.15 ² /4)×4	0.129	m ²
床版はつり	鉄筋構造物	(0.20×0.25-π×0.15 ² /4)×0.05×4	0.006	m ³
削孔	φ130		4	箇所
排水樹	FC250、150×150		4	組
排水管	VP100	1.25×4	5.000	m
取付金具	重鉛メッキ仕様		4	組
後埋モルタル		0.003×4	0.012	m ³

施工手順

- 後付け型水切り工設置箇所を清掃する。
- 後付け型水切りに専用接着剤を塗る。
- 後付け型水切りを押し付けて取り付ける。

※設置端から5cm程度の位置に設置

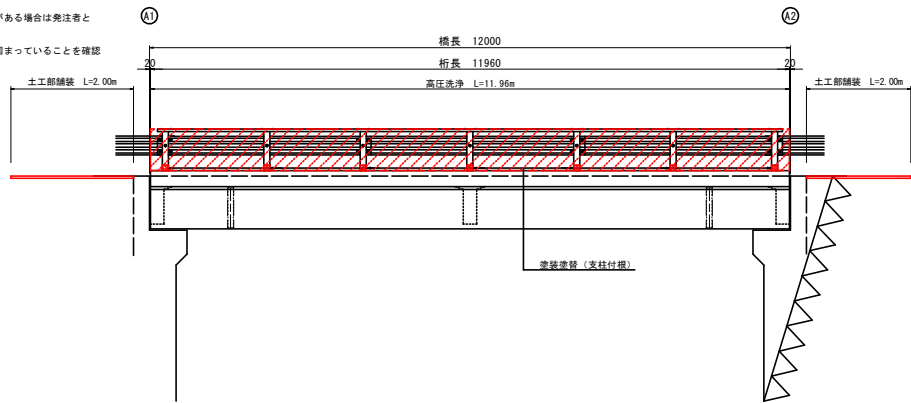
水切工数量表				
種別	規格	計算式	数量	単位
水切材	エチレンプロピレンゴム	11.96×2	23.920	m

第2中ノ平橋 防護柵補修工・土工部舗装打換工図

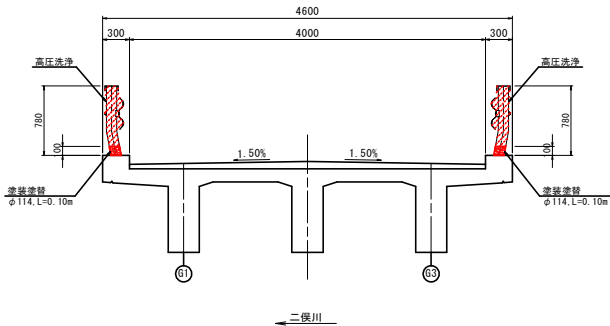
路線名	中ノ平橋		事業名	第2中ノ平橋補修工事		
林道区分	その他	級別区分	2級	設計速度	20 km/h	
年度	令和7年度		施行主体	いちき串木野市		
名称	防護柵補修工・土工部舗装打換工		業中	番		
施行地	鹿児島県		いちき串木野市川上	地内		
縮尺	図示	審査者		設計者		
図面番号	17					

- 注記)
- 施工前には必ず現況寸法実測を行い、図面照合等の確認ののち施工箇所を決定すること。
 - 土工部の舗装（表層）は、既設舗装厚を確認し相違がある場合は免注者と協議し決定すること。
 - 表層を撤去した際、路盤工を確認するとともに、締固まっていることを確認すること。

側面図 S=1:50

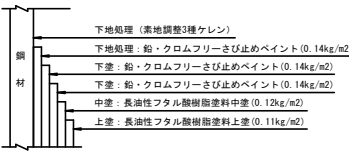


断面図 S=1:30



防護柵（支柱付根）塗装塗替仕様

Ra-Ⅲ塗装系

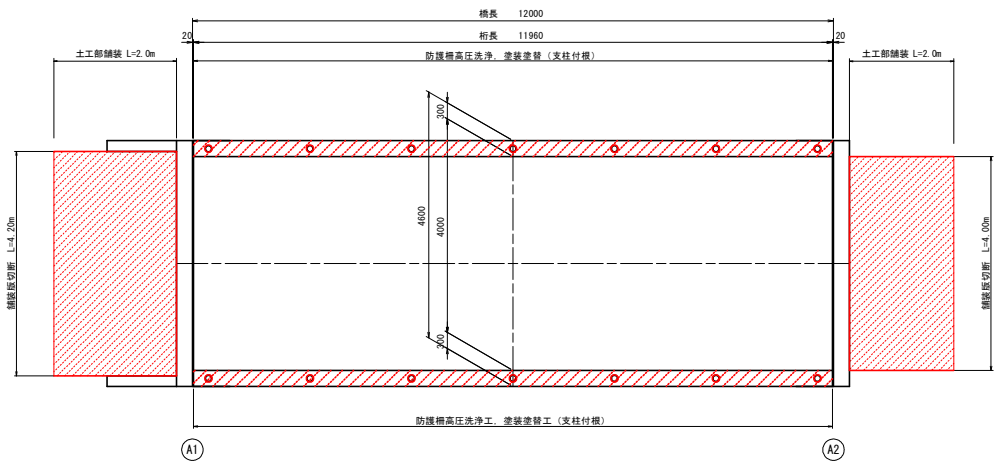


Ra-Ⅲ塗装系（はけ、ローラー）

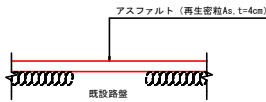
塗装工程	塗料名	使用量 (g/m2)	塗装間隔
素地調整	3種		4時間以内
下塗	鉛・クロムフリーさび止めペイント (鉛量露出部のみ)	(140)	1日～10日
下塗	鉛・クロムフリーさび止めペイント	140	1日～10日
下塗	鉛・クロムフリーさび止めペイント	140	1日～10日
中塗	長油性フタル酸樹脂塗料中塗	120	2日～10日
上塗	長油性フタル酸樹脂塗料上塗	110	

※1：現場の施工状況に応じて塗装間隔を別途取り決める場合もある。

平面図 S=1:50



土工部舗装構成 S=1:10



防護柵補修工数量表

種別	規格	計算式	数量	単位	1橋当り
高圧洗浄		11.96 × 0.78 × 2 × 2	37.315	m2	
塗装塗替	Ra-Ⅲ塗装系	π × 0.114 × 0.10 × 7 × 2	0.501	m2	支柱付根

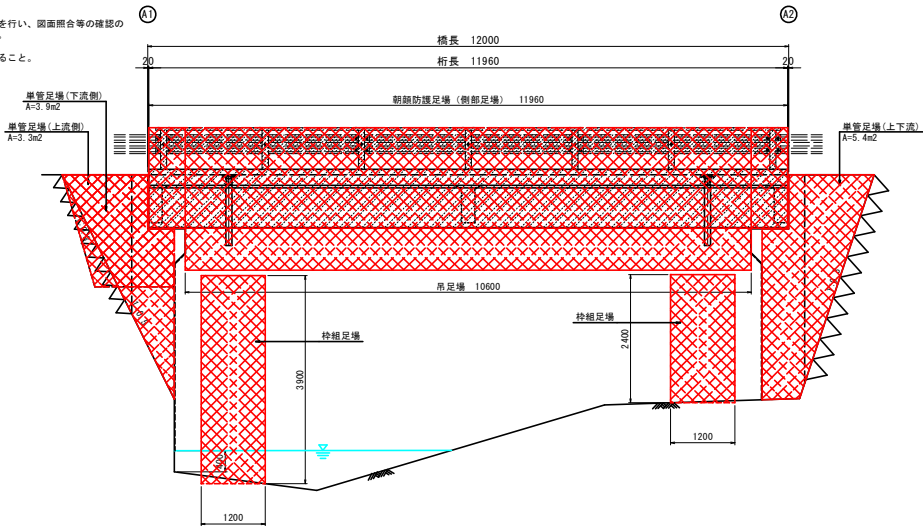
土工部舗装打換工数量表

種別	規格	計算式	数量	単位	1橋当り
舗装板切斷	As, t=4cm	4.20 × 4.00	8.200	m	
舗装板破砕	2.00 × (4.20 × 4.00)		16.400	m2	
同上運搬、処分			0.656	m3	
777材料舗装	密粒度773, t=4cm	2.00 × (4.20 × 4.00)	16.400	m2	

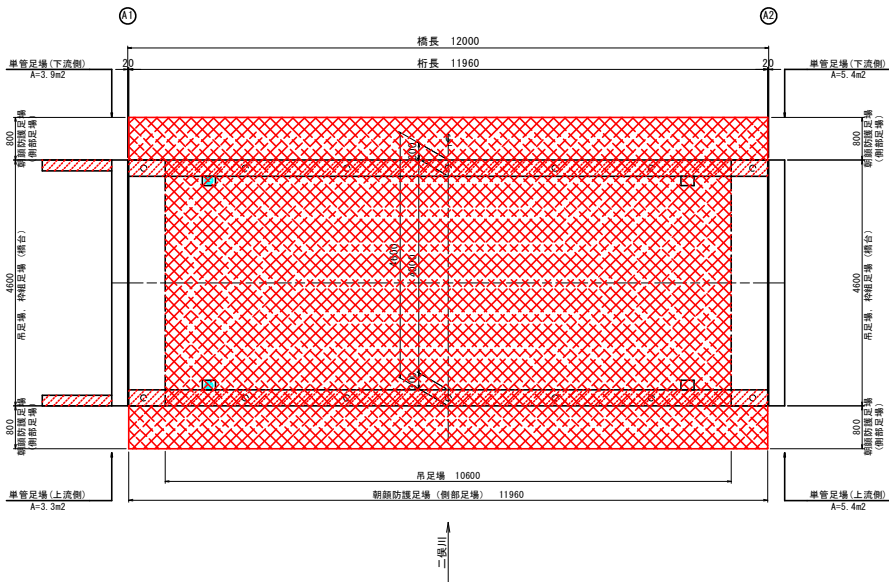
路線名	中ノ平橋	事業名	第2中ノ平橋補修工事
林道区分	その他	級別区分	2級
年度	令和7年度	設計速度	20 km/h
名称	仮設参考図	2	案中
施行地	鹿児島県	いちき串木野市川上	地内
縮尺	図示	審査者	設計者
図面番号	18		

第2中ノ平橋 仮設参考図 (1/2)

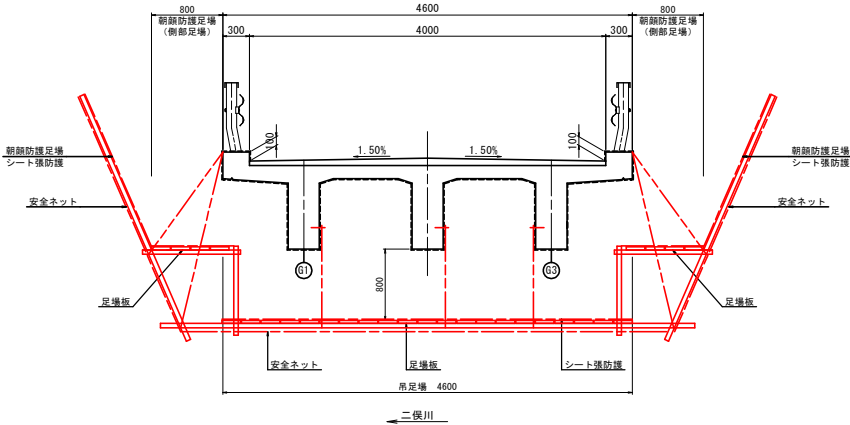
側面図 S=1:50



平面図 S=1:50



断面図 S=1:30



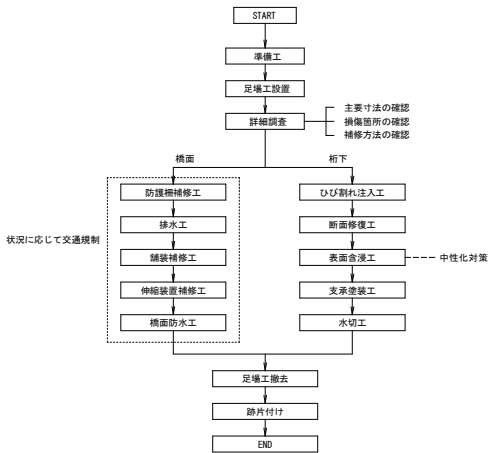
仮設工数量表

種別	規格	計 算 式	数量	単位	1橋当り
吊足場	タイプA1 (桁高h(1.5))	4.60×10.60	$= 48.760$	48.8	m2
	シート張防護	4.60×10.60	$= 48.760$	48.8	m2
朝顔防護足場	タイプE, シート防護	$0.80 \times 11.96 \times 2$	$= 19.136$	19.1	m2
枠組足場		$(3.90 + 2.40) \times 4.60$	$= 28.980$	29.0	掛m2
單管足場		$3.3 \times 3.9 \times 5.4 \times 2$	$= 18.000$	18.0	掛m2

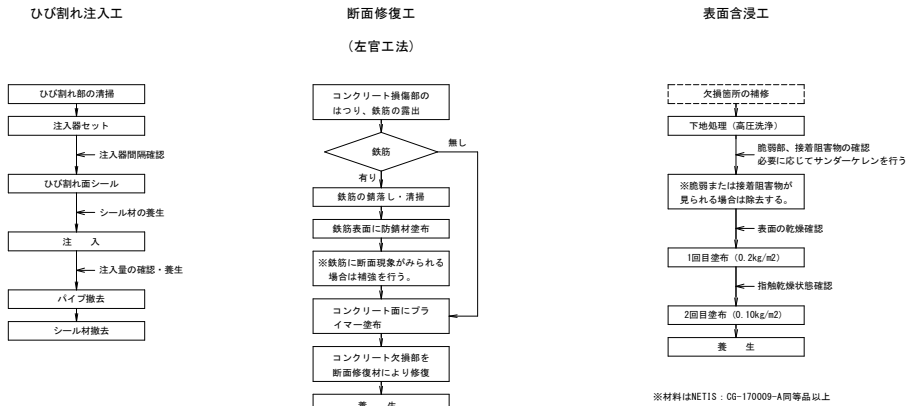
路線名	中ノ平橋		事業名	第2中ノ平橋補修工事		
林道区分	その他	級別区分	2級	設計速度	20 km/h	
年度	令和7年度		施行主体	いちき串木野市		
名称	仮設参考図		2	案中	2番	
施行地	鹿児島県		いちき串木野市川上		地内	
縮尺	図示	審査者		設計者		
図面番号	19					

第2中ノ平橋 仮設参考図（2/2）

補修工事フローチャート



工種別フローチャート



第2中ノ平橋 概略工程表（案）

工 期	15	30	45	60	75	90	105	120	(日) 135	備 考
準 備 工		30								
足場設置・撤去			2			1				
詳 細 調 査			3							
橋 面 工				26						排水、防水、伸縮装置、防護欄、舗装
ひび割れ注入工				2						
断面修復工					8					
表面含浸工						7				
支承差装工							4			
排水工（桁下）								2		
跡 片 付 け									20	
足場供用日数 60日										
概略施工日数 109～110日										

施工前の注意事項

- 設計図書を読み、施工方法・問題点を事前に把握しておき、特に桁端部など作業スペースが狭い箇所については、よく確認しておく。
- 調査時と損傷の大きき等が変化している可能性があるため、再調査を行い確認する。
- 本橋は河川（普通河川二保川）が交差しているため、所轄担当課と事前協議を行う必要がある。
- 橋面施工は規制を要するため、施工手順を検討のうえ、発注者及び管轄監督と事前協議を行う。

補修施工

・当該橋は、以下の点に留意して施工を行う。

- 足場資材の荷下ろし及び回収時は、橋梁利用者を考慮して交通規制期間を最小限にし、且つ安全性を確保する。また、必要に応じて誘導員を配置する。
- 吊足場の作業床面高は、施工時に適宜調整する。
- 吊足場の床面や朝顔には飛来落下物防止対策として防護（シート張）を行う。
- 足場設置期間は、台風、異常降雨など、事前に撤去を必要とする場合がある。
- 着工前には必ず寸法実測を行い、図面照合の上、材料発注・施工を行う。
- 断面修復のはつり深さは図面に記載しているが、はつり調査結果に基づき設定したものであり、実際の鉄筋位置に応じて調整を行うこと。
- 本橋の鉄筋露出50mm×50mmは、施工性を考慮し100mm×100mm（施工最小面積）とした。
- 上記以外については、各種修図面に記載している内容を確認する。